



三稜会会報

津島高校同窓会



平成26年7月17日
第63号

発行 愛知県立津島
高校内三稜会
〒496-0853
津島市宮川町3-80
電話 0567-28-4158
発行人 横井 義一
編集人 伊藤 正 隆



新緑の正門



「ただいま」

三稜会会長

横井 義一

三稜会々員の皆様の、ご健康とご活躍をお喜び申し上げます。去る5月31日開催の役員会・幹事会の案内状に、以下の挨拶状を同封させていただきました。

以下は、今年の卒業式における卒業生の「答辞」の結びの言葉です。

『私たちは今日、「いつてきます。」と言って、津島高校を笑顔で旅立とうと思います。』

それは何十年か後に「ただいま」と胸を張ってこの場所へ帰ってくる、という約束の言葉です。そしてその時に、堂々とこの津島高校の門をくぐるため、私たちはこれからも、努力を怠ることなく、辛い時には津島高校での日々を勇気と力に変えて、歩き続けます。

私たちが大きく花開かせてくれた大好きな津島高校のすべてに、今はただ、心からの感謝をささげます。最後になりましたが、津島高校のますますの発展と皆様の幸せを願い、答辞とさせていただきます。』

私は、聞いていて胸が熱くなるとともに、卒業生の期待に応える同窓会活動ができているかどうか責任を感じました。母校に「帰ってくる」中心的機会はないかと思いま

す。

どうしたら「母校のますますの発展」に貢献できる同窓会活動が展開できるのでしょうか？どのように、卒業生の母校を思う心を結集できるのでしょうか。今年の卒業生は第66回生です。活動内容も、世代の交代とともに変化が求められます。伝統を尊重しつつ、時代の変化に対応した内容への転換が求められると思います。

創立110周年記念事業として、「母校の新しい伝統として育つ」とを期待されて生まれた懸賞論文制度は、幸いにも稲葉真弓文学賞として芽が出ました。末永い成長を支えていきたいと思えます。総会の席を盛り上げる表彰式にしようではありませんか。また、久しぶりに母校の校門をくぐる機会にしたいと思っています。そして、総会を母校に戻しました。先述の「答辞」は、新入会員が同窓会に寄せる、期待感の表明だと思えます。同窓生が参加したくなるような総会にするには、さらにどのようにすべきでしょうか。彼らに満足のいく「応え」を作り上げることができるよう、そして、4万人に迫る卒業生が「胸を張って・堂々と帰ってくる」場が提供できる

よう、皆様の叡智を頂きたいです。

先述の案内状を発送した直後、思いもかけない朗報が入ってきました。懸賞論文の審査委員長・稲葉真弓さん（高校20回生）が紫綬褒章を受章、というニュースです。私は興奮しました。母校にとってこの上ない誉れであることは言うまでもありません。しかも、稲葉真弓文学賞として新スタートしたばかりの懸賞論文制度が、「母校の新しい伝統として育つ」に当たっての、最高の後ろ盾を頂いたと思いました。歴史を重ねた伝統校にしてこそこの快挙と言えましょう。

こうした、他校にはない恵まれた環境の中で高校生活を送ることが出来る後輩たちは、将来堂々と、「ただいま」と言って帰ってくるに違いないと思います。皆さん！誘い合って、「ただいま」と母校を訪ねてみませんか。青春時代に思いをはせ、今日の幸せに浸る機会を得て頂きたいと思えます。

母校の学習環境の、より一層の向上に貢献しつつ、その喜びを分かち合える三稜会にしてまいりたいと思います。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

同窓生の皆様には、ご健勝で活躍のことと推察いたします。日頃は、本校の教育にご支援を賜り、心から感謝申し上げます。同窓会の皆様の働きかけにより、正門前の道路に街路灯が四基設置され、生徒の交通安全に役立っています。ありがとうございます。

持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議が、今年十一月十日から十二日まで名古屋市中で開かれます。

全ての人が持続可能な未来の実現のためには、現在の課題である「環境保全と両立した持続可能な経済発展」、「世界の貧困や格差紛争の解決」、「複雑化・グローバル化した高度情報化社会」などの解決が必要です。

高度情報化社会の象徴の一つはスマートフォンです。電話、メール機能の他、インターネット、マルチメディアプレーヤー、ゲームなどの機能を持ち、携帯できるパソコンと言えます。情報機器の発達により便利になった反面、LINEというシステムでは自分の送ったメールが仲間に読まれたかどうか分かるため、それがいじめの原因になったり、家庭学習を妨げる原因になったりしています。津島高校では、一日の利用時間は三十分以内、午後九時以降は利用しないことを呼びかけています。

「同窓会員の皆様へ」

校長 小川 和 夫



日本の食糧自給率はカロリーベースで四十%でしかないのに、一日に壱千万人分の食料がゴミとして捨てられています。一方、世界では、毎日三万人の子どもたちが餓死しています。世界の貧困や格差の一例です。地球温暖化の主な原因は二酸化炭素の割合の増加です。

今のペースで温暖化が進めば、東京の気候が亜熱帯であるフィリピンのようになると思われます。また、石油はあと数十年で枯渇すると言われており、そうなれば、電気、自動車、輸送など経済、生活のすべてに大きな打撃を受けます。

持続可能ということから言えば、少子化も大きな課題です。日本の人口は二〇〇五年から減少に転じています。今一億二千万の人口が三十五年後には一億人を切ると予想されています。

卒業生の皆様が、持続可能な未来の実現に貢献していただけることを期待しています。

これからも、四十七分七時限授業、土曜学習会、国際理解コースを生かした最先端の英語の授業など、特色ある教育活動を行ってまいりますので、卒業生の皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。

三稜会幹事学年を終えて

津島高校を卒業して三十九年が過ぎ、平成二十五年度の総会・懇親会の幹事学年を三十六回生が務めさせて頂きました。その節は関係者の方々、諸先輩方に多大なご協力、ご指導を賜り、誠に有り難うございました。また、同窓生の皆様の多くの参加をいただき有り難うございました。厚く御礼申し上げます。

総会・懇親会に向けて私は、『三稜会総会・懇親会の準備をしよう』を胸に進めてまいりました。幹事学年が終わって今、益々同窓生との絆が強くなった様に感じています。これも『津島高校三稜会』が先輩方から脈々と受け継がれてきたからでしょう。

この会の大切さ・存在感の大きさを肌で感じる事が出来、津島高校卒業生である事を誇りに感じています。この感情を後輩たちにも感じていただきたく、会が永遠に受け継がれていく事を期待しております。

この感謝の気持ちをささやかではあります。三十六回生から興学館に『庇の増築』を寄付させて頂いた事を喜んでおります。卒業生として津島高校・先輩方・三稜会に感謝の気持ちでいっぱいでございます。

最後になりましたが、今後の三稜会の発展と、皆様の益々のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。

高校三十六回生代表 馬場 孝道



「津島高校三稜会（同窓会）」のホームページで、随時情報が掲載されています。

URLは <http://www.sanryokai.com> ぜひ、アクセスしてみてください。

平成26年度 総 会

平成二十六年年度の三稜会総会は、三十七回生が幹事を務めさせていただきます。

卒業三十年を迎えるこの年に幹事学年を担当することは諸先輩方からお話は聞いていましたが、まさか私が代表幹事をする事になるとは思いもよらず、ただただ恐縮するばかりです。

数年前より同窓会を開くたびに、仲間と共にこの三稜会に向けての準備は徐々に進んでいきましたが、いよいよ時期もせまり、身の引き締まる思いです。

本年も、総会ならびにホームカミングデーは津島高校三稜館（体育館）にて、懇親会は津島市文化会館にて開催させていただきます。

どの会におきましても、皆様方にはご不便・ご迷惑をおかけすることになりますが、何とぞ寛大な心でご理解をお願いいたします。「おもてなし」の精神で皆様をお迎えさせていただきます。

また、十七回生の皆様方におかれましては、卒業五十年という喜ばしい年をお迎えになられ、誠にありがとうございます。当日は懇親会の場において、皆様の笑顔とともに楽しいひと時を過ごしていただけるようお時間を設けています。是非とも皆様のご来場を心よりお待ちしております。

総 会 に 向 け て

高校37回生代表幹事 市川幸造

さて、我々三十七回生は丙午生まれの年ということもあり、少数精鋭となりますが、それを感じさせないくらいのパワーで心を一つに準備を進めています。高校時代はあまり接することのなかった同級生とも、この会を通じて友となり、意見交換をし、学生時代の文化祭のノリで楽しくやらせていただいています。そういつた時間の中で、想い出話に花を咲かせ、お互いの成長を実感でき、こうした機会を得られたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

伝説ある津島高校・三稜会の一員であることに嬉しく思うとともに諸先輩方と間近で接する機会が我々を成長させてもくれます。

最後にになりましたが、母校の益々の飛躍と、会員の皆様の更なるご活躍を祈念し、幹事学年代表の挨拶とさせていただきます。

平成26年度 三稜会総会次第

【総会】

日時 平成二十六年九月二十八日（日）

受付 九時～ 総会 十時三十分～

場所 津島高等学校三稜館

表彰の部

第一回稲葉真弓文学賞（三稜会懸賞論文）表彰式

審査委員長 稲葉真弓さんの挨拶・講評

総会の部

一 開会の言葉・幹事学年代表あいさつ（敬称略）

二 物故者への黙祷 幹事学年代表 市川幸造

三 会長あいさつ 三稜会会長 横井 義一

四 校長あいさつ 校長 小川 和夫

五 津島高校勤続十年表彰 三稜会会長 横井 義一

六 議長選出・あいさつ

七 議事

八 閉会の言葉

九 記念演奏（二十分） 津島高校音楽部

〇記念写真撮影

〇合同懇親会

一 開会の言葉

二 会長あいさつ

三 乾杯

四 卒業50周年会員表彰式

五 校歌斉唱

六 『三稜の鍵』継承式

七 次年度幹事学年（38回生）あいさつ

八 万歳三唱

九 閉会の言葉

〇合同懇親会

〇記念写真撮影

〇合同懇親会

〇記念写真撮影

〇合同懇親会

〇記念写真撮影

〇合同懇親会

〇記念写真撮影

〇合同懇親会

〇記念写真撮影

〇合同懇親会

〇記念写真撮影

平成26年度 三稜会役員等（案）

相談役

津田はるみ

佐藤 嘉國

大橋 忠行

後藤 務

田中 秀彦

千賀 修一

渡辺 勝

横井 五六

常任理事

岡田 貞雄

津坂 園子

片岡 静子

大島 博

服部 広光

寺田 百貴

青山 道男

伊藤 正隆

特別顧問

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

〇稲葉 真弓

三稜会校内事務局

伊藤 一 高25
伊藤 泰光 高26
伊藤 忠司 高26
伊藤 潤 高27
伊藤 正之 高28
伊藤 章博 高29
伊藤 伸夫 高33

◎は新役員 ○は役職変更

事務局長

伊藤 一 高25（教頭）

◎馬場 孝道 高36

◎伊藤 紀彦 高36

◎水谷 弘正 高35

◎岩田 政久 高34

◎伊藤 憲司 高33

◎神田 昭雄 高32

◎野田 道雄 高31

◎長谷川 實 高29

◎石川 鑛一 高25（会計）

◎顧問 貞夫 高17

◎顧問 忍 高12

◎顧問 貞夫 高17

◎顧問 忍 高12

◎顧問 貞夫 高17

■ 平成26年度 三稜会事業計画(案) ■

- 第1回三稜会理事会・幹事会 平成26年5月31日(土)
 - 事業報告 (2) 事業計画
 - 会計(三稜会・三稜育英会)報告 同監査報告
 - 予算案 (5) 役員改選
 - 総会に関すること(幹事学年37回生)
 - その他
- 校内事務局打ち合わせ 平成26年4月
- 三稜会会報(第63号)の発刊 平成26年7月予定
- 平成25年度稲葉真弓文学賞(三稜会懸賞論文)最終審査 平成26年5月24日(土)
- 平成26年度稲葉真弓文学賞(三稜会懸賞論文)募集
10月要項配布予定(例年、題は幹事学年が決めます)
- 平成26年度総会・懇親会
(幹事学年: 高校全日制37回生・定時制34回生)
○総会・ホームカミングデー: 平成26年9月28日(日)
10時半より(会場: 津島高校三稜館)
 - 役員改選
 - 津島高等学校勤続十年表彰(平井教諭) 1名
 - 平成25年度稲葉真弓文学賞(三稜会懸賞論文)表彰
 - 平成25年度事業報告・平成26年度事業計画の報告
 - 平成25年度決算報告・平成26年度予算の報告
 ○懇親会: 総会当日午後 受付12:00 開始13:00
(会場: 津島市文化会館)
- 第2回三稜会理事会・幹事会 平成27年2月予定
- 三稜会入会式(全日制第67回生)平成27年2月27日(金)
卒業式 2月28日(土)
(全日制第67回生・定時制第64回生)

■ 平成25年度 三稜会会務報告 ■

- 三稜会理事会・幹事会 平成25年6月1日(土)
 - 事業報告 (2) 事業計画
 - 会計(三稜会・三稜育英会)報告 同監査報告
 - 予算案 (5) 役員改選
 - 総会に関すること(幹事学年36回生)・その他
- 校内事務局打ち合わせ 平成25年4月
- 三稜会会報(第62号)の発刊 平成25年7月18日発刊
- 三稜会懸賞論文募集
協賛先への新役員挨拶まわり 平成24年11月
最終選考会 平成25年5月25日(土)
「稲葉真弓文学賞」として新スタートに了解を得る。
記念講演会を9月3日に開催
平成26年度募集要項・ポスターを10月に配布
中日新聞社の後援が決定 10月 9月19日に尾張版
と社会面に関連記事が掲載される
(株)宇佐美鋳造が新規協賛会社に 11月
- 平成25年度総会・懇親会
(幹事学年: 高校全日制36回生・定時制33回生)
○総会・ホームカミングデー: 平成25年9月29日(日)
10時半より(会場: 津島高校三稜館)
 - 役員改選
 - 卒50年会員表彰(高16回・定13回)
→懇親会で表彰しました
 - 津島高等学校勤続十年表彰(神田教諭、加藤教諭)
 - 平成24年度三稜会懸賞論文表彰
 ○懇親会: 総会当日午後 受付12:00 開始13:00
(会場: 津島市文化会館)
- 三稜育英会 理事・評議員の任期満了に伴う選出
- 第2回三稜会理事会・幹事会 平成26年2月8日(土)
- 三稜会入会式(全日制第66回生)平成26年2月27日(木)
卒業式 2月28日(金)

平成25年度 三稜会(一般会計)収支決算書(案)

自平成25年4月1日
至平成26年3月31日

収支予算書(案)

自平成26年4月1日
至平成27年3月31日

収入の部

(金額単位: 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	26 年 度 予 算 額
入 会 金 収 入	1,690,000	1,690,000	0	1,690,000
繰 越 金 よ り	0	0	0	0
そ の 他 の 収 入	400	220,351	- 219,951	400
収 入 計	1,690,400	1,910,351	- 219,951	1,690,400

支出の部

会 報 費	900,000	862,997	37,003	1,000,000
慶 弔 費	60,000	0	60,000	70,000
生 徒 記 念 品 費	80,000	67,431	12,569	80,000
会 議 費	50,000	20,498	29,502	60,000
事 務 費	500,000	432,448	67,552	400,000
そ の 他 の 支 出	100,400	256,881	- 156,481	80,400
支 出 計	1,690,400	1,640,255	50,145	1,690,400

当 年 度 収 支 差 額	0	270,096	- 270,096	0
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	2,972,717	2,972,717	0	3,242,813
繰 越 金 支 出	0	0	0	100,000
次 年 度 繰 越 収 支 差 額	2,972,717	3,242,813	- 270,096	3,242,813

(円)

三稜会(一般会計) 貸借対照表

平成26年3月31日現在

科 目	金 額
I. 資産の部	
普通預金	
普通預金 三菱東京UFJ銀行 津島支店	3,242,813

三稜文庫の寄贈書籍 受付終了について

卒業生の皆様から在校生に寄贈していただいております書籍（三稜文庫）につきましては、書架に収納できないほどにご協力いただきました。

そのため、少し前から寄贈書籍の受付を終了しておりますので、よろしくお願いいたします。

これまでのご理解とご協力、誠にありがとうございました。

（事務局より）

※叙勲受章者の皆さん※

本校卒業生は各界でご活躍され、叙勲を受けられた方々も大勢いらっしゃいます。永年のご功績に敬意を表し、三稜会会報でご紹介させていただきます。（他にも叙勲を受けられた方がいらっしゃると思いますが、全部をお載せできずに申し訳ございません。ご本人やご家族、周囲の方々でぜひ三稜会事務局までお知らせください。）

26年春 紫綬褒章 稲葉 真弓 様
（高校20回生/昭43年卒） 芸術文化

25年秋 瑞宝中綬章 三谷 法雄 様
（高校4回生/昭27年卒） 教育研究功労

平成25年度 一般財団法人三稜育英会 収支決算書(案)

自平成25年4月1日
至平成26年3月31日

収支予算書(案)

自平成26年4月1日
至平成27年3月31日

収入の部

（金額単位：円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	26 年 度 予 算 額
110 周年記念事業余剰金	0	0	0	0
三稜会祝賀会からの寄付金	1,200,000	725,258	474,742	700,000
三稜文庫募金の寄付金	100,000	114,405	－ 14,405	100,000
松の木募金からの寄付金	80,000	124,000	－ 44,000	100,000
周年記念事業積立金からの寄付金	0	0	0	0
三稜懸賞論文後援者からの寄付金	400,000	800,000	－ 400,000	900,000
繰 越 金 よ り	0	0	0	1,798,500
そ の 他 の 収 入	1,500	2,608	－ 1,108	1,500
収 入 計	1,781,500	1,766,271	15,229	3,600,000

支出の部

三稜会総会準備金	500,000	213,140	286,860	0
三稜文庫	200,000	99,810	100,190	100,000
学校クラブ活動に対する補助	1,000,000	950,200	49,800	1,000,000
三稜懸賞論文	800,000	977,633	－ 177,633	1,300,000
三稜賞	100,000	32,955	67,045	100,000
学校設備等の改善援助金	1,000,000	428,874	571,126	1,000,000
そ の 他 の 支 出	100,000	187,940	－ 87,940	100,000
支 出 計	3,700,000	2,890,552	809,448	3,600,000

当年度収支差額	－ 1,918,500	－ 1,124,281	－ 794,219	0
前年度繰越収支差額	16,915,432	16,915,432	0	15,791,151
繰越金支出	0	0	0	1,798,500
次年度繰越収支差額	14,996,932	15,791,151	－ 794,219	13,992,651

（円）

一般財団法人三稜育英会 貸借対照表

平成26年3月31日現在

科 目	金 額
I. 資産の部	
普通預金	
普通預金 三菱東京UFJ銀行 津島支店	15,791,151

恩師のたより

津島高校の

伝統を考える

一組担任

宮崎 脩一 先生

現在七十三歳、右足の先がしびれているし、薬をたらふく飲まされていますが、昨年はネパール、今年はイスラエルに旅してきましたし、過労死問題の支援ボランティアで忙しい生活をしています。私は二十二年間、津島高校に在職しました。三中からの伝統は「自由」な雰囲気、教職員の中に残っていたことです。それは図書館にはたくさん、貴重な本が残されています。古い蔵書を調べると戦前でも、革新的な書物があり、それを読む優秀な生徒がいたことが見えてきます。教職員も大部分の人が労働組合に加入していて、



ヒマラヤ山脈を背景に一杯

若い教師が修学旅行の形態をいろいろ工夫してつくりあげたり、運動も勉強にも力をつくす生徒を育てることに力をそそいでいたと思います。最近、受験競争の激化で、こうした「自由」とか「自主」という雰囲気を受け継いでいるのか心配です。世の中が再び、戦争をする国に変えられようとしているだけに、こうした風に流されない豊かな知性に裏付けられた自由を大切にする学校の伝統を大切にしよう期待しています。

山歩き

二組担任

剣 光一 先生

退職してから山歩きを始めた。近場の三河、鈴鹿、美濃の山歩きが中心である。そして、年に数回は泊りがけで出かけている。ミヤマキリシマ咲く九州のくじゅう連山と由布岳に一度は登ってみたいと思っていた。その九州に二年続けて行ける機会があった。

昨年の六月初めに、くじゅう連山の一つ久住山に登り、念願のミヤマキリシマを見た。

今年、法華院温泉山荘に一泊し、久住山に登り、南の牧ノ戸峠に下りる縦走コースである。時期が五月、木々が芽吹いたばかりで、ミヤマキリシマは堅いつぼみが多かった。それでも長者原から坊ガツルの間は、シャ

クナゲ、ムシカリ、クサボケ、アセビなどの花が見られた。しかも左手には平治岳、大船山を眺めながら歩いた。その晩は念願の法華院温泉にゆつくりつかった。しかし、翌日の二日目は朝から雨で、風雨の強い中、二度目の久住山に登った。雨が顔に当たるのが痛かった。この雨で早めに牧ノ戸峠に下り、二泊目の湯布院に向かった。

三日目は雨もあがり、新緑の落葉樹の林を気持ちよく登り、由布岳山頂に立てた。眺めはよく、真下の湯布院、前日登ったくじゅう連山、東南には別府湾まで望めた。この頂上のひとときが、山登りの醍醐味である。これからも続けられたらいいと思う。



津島高校での新任時代

三組担任

久留宮 基嘉 先生

早いもので自分は現在教員生活も残すところ三年弱となりました。津島高校で新任として教員生活を始め六年間お世話になりました。現在は四校目の学校

として新川高校に赴任していますが、やはり二十代の新任時代に勤務した津島高校には今も心に残る思い出をたくさん持っています。

三十七回生のみなさんが一年生のとき初めて担任を担当しました。いろいろな自分自身が戸惑うことも多かったと思います。ただ今はあの頃の自分の若さも懐かしく感じています。津島高校は当時でも八十周年を越える伝統校で、何事につけゆつたりとしていて、生徒の自主性を重んじる温かさがあったと思います。教員団も意思の疎通がとれていて、夜の会合も多く、そんな中でいろいろな先輩に教えてもらったものです。とにかく津島時代の六年間は自分の教員生活の土台を作ってもらえたと感じています。

津島高校時代はハンドボール、野球の顧問を担当していました。残念ながら現在は部活動の担当から離れています。少々体が動きにくくなった所もありますが、その分やはりエネルギーを数学の教科指導に注いでいます。

三十七回生のみなさんもう人生の盛年期だと思っています。津島高校の卒業生としてもいろいろと活躍してください。

津島あれこれ

四組担任

串田 三九二 先生



五月末に「速報！神社でホテル光っています。先程二十四程確認できました。事務局長からメールが入りました。四月に津島神社のお堀に放流したヘイケボタルの幼虫が羽化し始めたのです。三年前に津島東高校を最後に定年退職を迎え、津島の地との関わりは唯一、「津島ホテルの会」の活動だけとなりました。先日宇治町で管理している無農薬田んぼで田植えをしました。そこでは六年目にしつとホテルが自然発生し始めています。津島高校には十七年間お世話になりました。三十七回生は二回目の三年生担任でした。スキーク修学旅行の企画やスタンプの進行に苦労したり、行事が空白になった二年生に、「統一LTC」やリーダー研修の合宿を企画・実施したこともありました。クラス菜園としてサツマイモやスイカ、メロンにも挑戦しましたがどれも不完全なものに終わっ

た記憶です。現在「農業塾」の塾生でもあり、野菜の育て方について勉強していますが、改めて当時の余りに稚拙な取り組みに苦い思いをしております。

定年退職後も再任用教諭として生物の授業を続けております。相変わらず桜観察から始まり、雑草調査も行います。そういえばその授業が終わった後、自分たちで採った草花をB紙に貼り、名前を覚えようとした意欲的なクラスがあったのはこの学年だったと思います。とても印象に残っています。

卒業して三十年、職場の要として活躍している人が多いと思います。重責をはねのけ頑張ってください。私もスポーツジムのバレーボールやバドミントンは最高齢ですが、雑草の如く遅く生きていこうと思っています。

教職50年目の現役

五組担任

河合 利昌 先生

三十七回生の三年担任は教職二十年目の節目で前年に続いての登壇となった。五組の大半の男子は運動部で活躍しており、女子も元気な子が多く実に元気な集団だった。その時のエネルギーは、その後三十年でどうなったのかな。きつと、たくましくなったのでは？

私はその後、津島高校で三年間で二回三年、一年の担任をし

て転勤した。津島北高校で十五年勤務して定年となった。ソフトテニスの外部コーチと非常勤講師をつとめながら今年三月で十一年が過ぎた。この間にソフトテニスでは何度も全国大会や東海大会の監督をさせてもらった。公立高校女子の部で、何度も県大会で上位になり、全県のテニス顧問の講習会の講師なども頼まれた。

今年には実に教職なんと五十年目になり、海翔高校（八年目）で一宮興道高校（今年度から）で週二日づつ非常勤講師をしている。これまで、こんな体験ができるのは何と幸せなことか。常に前向きに取り組み、継続してきたことで毎年毎年いい思いをさせてもらった。一昨年は新潟の全国高校総体に出場し、昨年は東海高校総体三年連続出場を果たし、年末には日本ソフトテニス連盟よりマスターレフェリーを認定された。まさに、「継続は力なり」。



近況報告

七組担任

今枝 仁 先生



三十七回生の皆さんが、津島高校を卒業してから早くも四半世紀以上が経ちました。過日、幹事学年としての打ち合わせ会を兼ねたクラス会に招かれ、三十年ぶりにお会いしましたが、昔日の感を禁じえませんでした。社会人としてそれぞれの持ち場で立派に活動している人、一家を支え子供の教育に心を砕いている人、私などよりもはるかに貫禄の備わった人もいて、日ごろの自分の生活を反省させられました。

私は、皆さんが卒業した年に異動となり、一宮高校と一宮西高校に勤務し、平成二十二年に定年退職しました。その後、名電高校に勤め今年で五年目になります。新鮮なことがたくさんあり、若返ったような気分です。過ごしています。二十四年には春夏連続で甲子園に出場し、都合四試合の応援に出かけました。近くにナゴヤドームもあり、時々OB選手の応援に出かけたり

しています。特進クラスの担任を四年間勤め、新任教員の意気込みがよみがえったような気分でした。趣味の世界では、白川静、宮城谷昌光という先達に出会って古代中国に導かれ、台北故宮博物院、西安陝西省博物館、安陽殷墟博物館、京都泉屋博物館等の見学を重ねて、目を肥やしています。

津島高校の思い出

八組担任

富田 栄子 先生



今年も緑の美しい季節がめぐってきました。この時期、特に思い出される場所の一つに津島高校があります。広大な敷地には多くの木々が茂り、古い建物との調和はとても重厚で、さすがは伝統校と感じさせるものがあります。校舎の西側の土手に生えていたニセアカシアの白い房状の花はよい香りを漂わせ、天ぶらにするとおいしいと教えられて、主婦のわたしは早速試してみたりしたものでした。今はどうなっているのでしょうか。三十七回生のみなさん、お元

気ですか。当時のわたしは津島高校では二回目の三年の担任で、四十一歳の若さ(?)でした。活気溢れる学校祭や、LT時に合格祈願のためにクラス全員で津島神社へ出かけたことなどが強く印象に残っています。そんなわたしも定年退職してもう十二年目になりました。旅行は既に卒業し、今はカルチャースセンターでいくつかの講座を楽しみ、ゆったりとした日々を過ごしています。

高校三十七回生担任

一組 宮崎 脩一
二組 劔 光一
三組 久留宮 基嘉
四組 串田 三九二
五組 河合 利昌
六組 武田 秀利
七組 今枝 仁
八組 富田 栄子

訃報のお知らせ

長年にわたり津島高校にご勤務されました
中島順子先生が平成26年2月17日、お亡くなりになりました。
享年66歳でした。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

▼最近4年間卒業生動向

		平成26年	平成25年	平成24年	平成23年
卒業生数	女	159	143	178	139
	男	315	318	317	311
大学進学	女	136	115	140	114
	男	278	268	267	259
短大進学	女	12	12	15	12
	男	0	0	1	1
専修専門学校	女	8	13	18	12
	男	14	6	5	4
浪人	女	0	3	2	1
	男	8	20	8	23
就職	女	2	0	1	0
	男	0	0	0	0
家事その他	女	1	0	2	0
	男	0	0	0	0

母校の近況報告

国際理解コースが設置されて八年目となります。一年生の英語合宿（英語漬けの三日間）、二年生の海外研修（約十日間にわたるオーストラリアホームステイ）が本校の特色ある取組として定着しています。また、昨年度から「あいちスーパージングリッシュハブスクール事業」指定校に選定されました。これからの社会に求められるグローバル人材の育成を目指した活動を一層進めてまいります。

四月から五月にかけて行われた総体予選では、多数の部活動が県大会への出場を決めました。さらに、陸上競技部から横井裕仁君・太田智基君・佐橋魁君・横井利沙さん（櫻木とも三年）、ソフトテニス部から櫻木彩可さん・中村美咲さん（二名とも三年）、なぎなたからは服部将大君（一年）の計七名の生徒が東海大会へ出場します。活躍を期待しております。

▼平成26年 大学合格者状況

	大 学 名	平26		大 学 名	平26		大 学 名	平26
国 立 大 学	東京海洋大	1	私 立 大 学	青山学院大	1	私 立 大 学	名 学 芸 大	18
	筑波大	1		北里大	1		名 文 理 大	7
	富山大	2		東京理科大	3		名 芸 大	1
	金沢大	3		法政大	1		南 山 大	94
	福井大	11		中央大	2		日 福 大	13
	長岡技術科学大	1		関東学院	1		日 赤 豊 田 大	5
	静岡大	2		東海大	1		藤田保健大	9
	岐阜大	10		神奈川大	4		星 城 大	11
	名古屋大	5		岐阜聖徳学園大	19		名 城 大	167
	愛知教育大	7		中部学院大	5		鈴鹿医科大	11
	名古屋工業大	7		岐阜医療科大	10		四日市看護	10
	三重大	14		愛知大	108		京 都 女 大	1
	滋賀大	3		愛知医科大	2		同 志 社 大	22
	京都工芸繊維大	1		愛知工業大	57		立 命 館 大	28
大 学	広島大	1	大 学	愛知淑徳大	116	短 大	龍 谷 大	1
	鳥取大	1		愛知学院大	64		関 西 大	5
	愛媛大	1		愛知学泉大	2		関西学院大	3
	香川大	1		愛知東邦大	2		近 畿 大	5
	宮崎大	1		愛知みずほ大	2		そ の 他	7
	琉球大	1		豊橋創造大	2		私 立 大 計	1147
	秋田県立大	1		桜花学園大	10		岐阜市立女短	1
	前橋工科大	1		金城学院大	31		大垣女子短	1
	高崎経済大	1		修文大	1		愛知学院短	3
	新潟県立大	1		椙山女学園大	42		名 学 芸 短	1
	福井県立大	1		大同大	23		名古屋短	7
	山梨県立大	1		中京大	49		名女大短	6
	岐阜県看大	1		至学館大	5		名柳城短	3
	愛知県立大	10		中部大	63		愛知さわかみ看短	4
国 公 立 大 計	名古屋市中大	3	国 公 立 大 計	東海学園大	13	短 大 計	三 重 短	1
	滋賀県立大	1		同朋大	1		至学館大短	4
	京都府立大	1		名音大	1		南 山 大 短	2
	奈良県立大	1		名学院大	11		そ の 他	2
	高知工科大	1		名外語大	40			
		98		名女大	36			35

ホームページのご案内

三稜会では、創立110周年記念事業の一環として、諸先輩のご尽力をいただきながらホームページを立ち上げました。多くの卒業生の方々のお陰で、様々な情報を発信することができるようになりました。

ますます情報化が進み、浸透して行く今日、当会においても情報の発信をより広く、スピーディーに行うために、ホームページを積極的に利用活用したいと考えております、その一環として、まずはリニューアルを行いました。

今後、皆様からのアイデアをいただきながら、新しい時代にマッチした変化を目指していきたいと考えております。

何卒、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

三稜会ホームページ

<http://www.sanryokai.com>

卒業生の活動、活躍などお知らせください。
またご意見などいただければ幸いです。

info@sanryokai.com

ホームページ担当 北角浩一（32回生）

つれづれ編集後記

五月三十一日、猛暑日を記録。四十五年ぶりだとか。▽四十五年前……ちやうど私が津島高校の門をくぐった年。確かに暑かった記憶はある。▽当時男子は制帽をかぶっていた。真夏の帽子の中は四十度をはるかに超えていた。頭を守るはずの帽子が逆効果である。生徒会活動を通して制帽の義務化を外した。▽当時の校舎は木造で、教室の床も板張りであった。机と椅子は片側がくつついた代物であり、一クラス五十名ほどの教室は、その一對の机と椅子で寸分の隙間もない。▽昨日といひ 今日と暮らして あすか川 流れてはやき月日なりけり『古今和歌集』実感である。▽今年も熱かった。今年から稲葉真弓文学賞と冠をいただいた三稜会懸賞論文である。▽今回のテーマは三十六回卒業生から出していた「友情」。高校生にとってあまりにも身近なあまりにも抽象的なテーマであり、作品の多くは友人論になってしまった。▽最優秀賞に輝いた中島あさ美さん（津島高校）の『伝える』は、自分から相手に言葉で伝え働きかけることで、「友情の連鎖」が生まれると力説した。▽自らの体験を通して「友情は無償であり、無償であるからこそ価値がある」と普遍化させた力作が寄せられた。▽高橋生の感性に脱帽である。▽その稲葉真弓氏がこの春、紫綬褒章を受章された。同窓生としてこの上ない誇りである。▽今年の総会は九月二十八日（日）。同窓生皆で、盛大に稲葉氏の受章をお祝い申し上げ、わが三稜会を一層発展充実させていく弾みとしたい。（文責 伊藤正隆）